

仔牛はとても弱く、すぐ病気になります。病気になれば手間もかかり、その後の発育にも大きく影響します。病気を予防して健康な仔牛を育てるため、一つ一つの作業の意味を理解、確認しましょう。

1 分娩時

生まれてすぐの作業には、大切な意味がたくさんあります。分娩時は、人がついて以下のような仔牛のケアをするようにします。

(1) 気道の確保

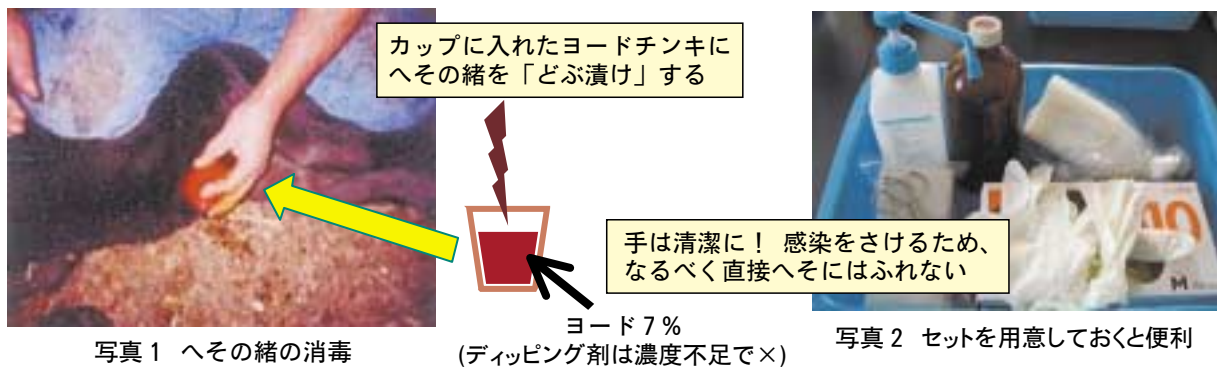
仔牛が生まれたらまず、口や鼻に付着した粘膜や羊水を取り除き、自発呼吸ができるよう気道を確保します。

(2) 「へその緒」の消毒

へその緒は、完全に乾くまで細菌に感染しやすい状態です。感染すると「さいたいえん臍帯炎」になり、ひどい場合は死にいたりします。正しく消毒しましょう（写真1、2）。

<消毒の方法>

- ① ヨードチンキ（ヨード7%）を使う
ヨードの殺菌効果で雑菌を消毒する方法
ヨードチンキに含まれるアルコールが「へその緒」の乾燥も促す効果もある
- ② カップやディッパーを使い「どぶ漬け」する（写真1）
「へその緒」全体をまんべんなく消毒できるのが利点



★臍帯炎を予防するには、へその緒の消毒＋清潔な場所で分娩させること

(3) 仔牛の体をしっかり拭く

生まれた仔牛の体は濡れています。濡れたままでは、どんどん体温が奪われます。タオルやワラなどで「しっかり、マッサージするように」拭きましょう。

表1 仔牛を拭く意義

なぜしっかり拭くの？	期待できる効果
すばやく体を乾かすため ＝体温が奪われるのを防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・体温の低下を防ぐ ・心肺機能が安定して呼吸が落ち着く ・消化器官にたまった羊水や胎便の排出が促される ＝ミルクを飲みたがるようになる
マッサージ効果があるため ＝血流が良くなり代謝があがる	